



# シェイクハンド

第30号  
H22.9

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

## 今年も暑い

今年もまた、梅雨明け後は、殆ど連日の猛暑です。会員の皆さまにおかれましては恙なくお過ごしでしょうか。

気象庁の報告によれば、群馬や岐阜では38度～39度を越えたそうです。こうした高温現象はよく言われるように、地球の環境汚染による、いわゆる“温暖化”が原因なのかどうか。とにかく最近はこの地球に棲む人間も含め“生きとし生ける物”にとっては、大きな変化に見舞われていると言えそうです。そこで改めて、残暑お見舞いを申し上げる次第です。

さて、保健医療や訪問看護の領域では、後期高齢者の急増を目前にして、相変わらずの医師や看護師の不足は続いており、その改善の見通しはなかなか立ちませんから、深刻です。また、この不足に拍車をかけているのが、医師や看護師の“偏在”的な就業状況です。

たとえば、医師の数だけを単純に人口千人あたりでみると、先進国のなかで日本は2.1、アメリカと英国が2.4、フランスが3.4、ドイツが3.5ですから、確かに少ないのですが、喧伝されるほどではありません。むしろ、こういう数の医師や看護師がどのように配置されているか、それが問題です。

日本の場合、病床数は人口千人対で14.0です。これは、英国の3.6やアメリカの3.2、あるいはフランス7.2、ドイツ8.3に比べると、圧倒的に高く、ここに多くの医師が取り込まれているのは言うまでもありませんが、同じように看護師もまたベッドのあるところ、つまり病院などの医療施設に9割がた就職しています。このような、いわば急性期中心の医療体制は、日本に特徴的なもので、他の先進諸国では見られないことです。こういう医師や看護師の就業

静岡県訪問看護ステーション協議会 会長 佐藤 登美



分布では、慢性期や回復期、あるいは持病を持って生活する人々への対応が手薄にならざるを得ません。今後、後期高齢者が増えることを考えれば、少なくとも人々のさまざまな健康状態（疾病も含まれる）を見ていけるようなバランスのよい体制作りがぜひとも必要です。なかでも、訪問看護サービスの充実には焦眉の課題だと言えます。これはもちろん、そのまま訪問看護ステーション協議会の課題でもあります。県や国への政策提言や関連団体との連携も含め、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

8月4日（木）から、平成22年度静岡県看護協会主催のe-ラーニングを利用した「訪問看護師養成講習会」が始まりました。今年は受講生が52名です。ここ数年来、低迷していた受講生数が上向きになって、ほっとしています。これを、今年限りではない良い兆しとして長続きさせたいです。というわけで、今年も暑い夏ですが、会員の皆さまと一緒に頑張っていきたいと思います。

（平成22年8月10日）



# 平成22年度 通常総会報告

平成22年度通常総会は、6月12日、静岡県総合社会福祉会館シズウエル703号室において、静岡県医師会会長 鈴木勝彦様（代理 静岡県医師会副会長 篠原彰様）、静岡県健康福祉部介護指導課課長 岩田信夫様、静岡県健康福祉部地域医療課課長 壁下敏弘様を来賓にお招きし開催された。

会員数192名中、出席者81名、委任状53名にて、以下の審議が行われ全て承認された。

1. 静岡県訪問看護ステーション協議会会則の一部変更
2. 平成21年度事業報告・決算報告
3. 平成22年度事業計画・予算
4. 平成22年度静岡県訪問看護ステーション協議会役員

## 【平成22年度 静岡県訪問看護ステーション協議会役員紹介】

会 長	佐藤 登美	社団法人 静岡県看護協会 会長
副 会 長	篠原 彰	社団法人 静岡県医師会 副会長
副 会 長	上野 桂子	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 顧問
理 事	今村 真理子	訪問看護ステーションけい 所長
	手老 美智子	訪問看護ステーション花時計 所長
	望月 愛子	訪問看護ステーションけいあい 所長
	三田 恵子	訪問看護ステーションふしみ 所長
	中山 力英	社団法人 焼津市医師会 副会長
	三浦 さえ子	訪問看護ステーション清水 所長
	小田 敏子	訪問看護ステーションマザー 所長
	谷崎 恵子	訪問看護ステーションほたるしずおか ディレクター
	高井 由美子	訪問看護ステーションもも 所長
	岩倉 はつ子	訪問看護ステーション大東 所長
	布尾 升美	訪問看護ステーション田尻 所長
	長谷川 厚子	訪問看護ステーション貴布祢 所長
	飯田 美保子	訪問看護ステーションはまな 所長
監 事	池田 純介	社団法人 三島市医師会 会長
	小長井 信子	社団法人 静岡県看護協会 常務理事
顧 問	松浦 徳久	（前）静岡市社会福祉協議会 会長
	村上 作之	社団法人 小笠医師会 参与
	榛葉 由枝	天竜すずかけ病院 副院長

西部支部長	岩倉 はつ子
中部支部長	三浦 さえ子
東部支部長	今村 真理子

広報委員 手老 美智子・小田 敏子・長谷川 厚子

研修委員 望月 愛子・谷崎 恵子・飯田 美保子

総務委員 三田 恵子・高井 由美子・布尾 升美

事務局 鈴木 恵子・市川 さやか



# 平成22年度

# 全体研修会報告

研修委員 谷崎 恵子

- 1、テーマ : リハビリテーションにおける看護について
- 2、講師 : 石鍋 圭子 氏 静岡県看護協会認定看護師課程  
脳卒中リハビリテーション看護 主任教員
- 3、開催日 : 平成22年6月12日(土) 15:30~17:30
- 4、会場 : 静岡県総合社会福祉会館 シズウエル701会議室
- 5、参加者 : 87名

在宅で私たちが接する利用者の方々が、最後まで自分らしく家庭で生活するために、リハビリテーションは欠かせない要素となります。そこで私たち企画・研修委員は、看護師としてリハビリテーションをどのように捕らえ、どのような視点で看護場面に展開できるかを学ぶため、数々のリハビリテーションの実際や教育現場を経験されている、石鍋圭子先生にご講義いただくことにしました。

まず石鍋先生から、今、何故、リハビリテーションが求められるのかという問いかけがなされ、リハビリテーションは活力ある超高齢社会の実現や寝たきり予防対策にとって重要であり、生きていくためのリハビリテーションは終末期まで続ける必要があるとの説明がされました。その中で、職種に関わらず、共通の理念を持つ、チームアプローチの重要性が強調され、ただ単に訓練室で機能訓練を行うだけでなく、障害や社会的不利な状況を持つ人々の生活環境に介入して、その社会で共に生活していくことができるようにしていくことが、リハビリテーションであることが説明されました。

次に、その人のQOL(生活の質)を改善して、人間としてのありようを助けること、そのために、各職種の技術を提供することに看護がどのように関わりをもっていくかが説明されました。急性期・回復期・維持期・終末期のリハビリテーションそれぞれの目標を理解し、特に在宅とかかわりのある維持期・終末期のリハビリテーションについて学びました。在宅生活の中で、生活動作の機能評価をすること、より普通の生活をするために動くこと、起きる事の大切さを知りました。そしてリハビリテーションを始めるためのより良い状態を作ること大切な看護師の役割であることが説明されました。その人の活動を妨げる要因になりうること、尿道カテーテルの留置や関節拘縮・腓側の筋力低下など、看護師がリハビリテーションの視点をもって接することで、改善

されることがたくさんあります。日々行っている看護ケアについて、今一度リハビリテーションの視点で見つめなおしてみる必要を感じました。

その具体的方法として、ADL(日常生活活動)の評価について、生活に即した動きを車椅子への移乗を例に、一つ一つの動作の分析の仕方、ADLの分類を学ぶことが出来ました。また、バーセルインデックスやFIMの評価基準の概要を学びました。そして、私たち看護師が行うADL評価の特徴として、生活の場での評価であり、生活上の目的を果たす為の一連の行為として評価することが上げられていました。それは在宅での実際の看護場面に非常に即した評価やリハビリテーションを行えるということだと思います。

日々私たちが直面しているケアの場面にリハビリテーションの視点を加えていくことで、私たちの看護感やケア内容に広がりを生むことが出来ると思います。リハビリテーションにおける理念・人間観をしっかりとっていききたいと思う研修でした。







# ステーション紹介

## 東部 介護保険センターぱーむ

所長 森 美子

こんにちは。「訪問看護ステーションぱーむ」です。平成14年2月に医療法人社団英志会 渡辺病院を母体に病院の30周年記念として、在宅への円滑な移行を目的に居宅介護支援、訪問看護、リハビリテーション事業所を開設しました。富士市の中央部に位置し、富士・富士宮市を訪問範囲として活動しています。「ぱーむ」とは、「手のひら」という意味で「手のひら」の温かさをモットーに、スタッフ一同心を込めたサービスを心がけています。

現在、スタッフはケアマネジャー1人、常勤2人、非常勤3人、事務1人、病院から理学療法士が交代で1名加わり活動しています。医療制度改革により、入院期間の短縮化でADLが著しく低下したまま、在宅へ戻ってこられる利用者様がいます。ご家族の不安・負担も大きく、主治医・看護師と理

学療法士・他事業所スタッフとの連携を密にすることで、精神・身体両面からより良い支援が行われるものと考えています。また、24時間の緊急時にも対応しており、住み慣れたご自宅でいつまでも安心して暮らせるよう、在宅の中心は利用者様とご家族という考えを忘れずに、質の高い看護が提供できるよう、日々取り組んでいきたいと思っています。

車には、30周年を記念して考えられたロゴマーク、渡辺病院の「W」と「ナースキャップ」と「包帯」がトレードマークとして描かれています。雄大な日

本一の山、美しい富士山に見守られながら、ぱーむ車は今日も待ってくださっている利用者様の元へ、安全運転をモットーに走ります。

次は『訪問看護ステーションぬまづ』さんです。



## 中部 訪問看護ステーションしずおか

所長 杉山 恵子

こんにちは、ステーションしずおかです。私たちステーションは昭和63年、静岡市医師会が在宅療養環境整備の一環に在宅ケアセンターとして設立、無料の訪問看護を開始。平成5年、静岡市医師会訪問看護ステーションしずおかとして再スタート、平成6年に医療と福祉の連携を目的に静岡市社会福祉協議会に移管されました。現在事業所は城内町の本所と中野新田に出張所があります。平成21年度は延べ人数510人の利用者様に17951回の訪問をさせていただきました。

介護保険と医療保険の比率は利用者数では8：2、

訪問件数では7：3となっています。スタッフは、訪問看護師31名、理学療法士3名、作業療法士1名、事務職2名の大所帯です。訪問の形態は、基本担当受け持ち制ですが、葵区駿河区を3ブロックに分け、常勤リーダーを中心に互いの情報を共有し合い訪問を実施しています。

スタートしてから22年、私たちは初代所長が掲げた理念を受け継ぎ訪問を行っています。不思議な事に、多くの困難に遭遇した時もこの理念を思い起こし、自身のなすべき事を直視した時、必ず道は開けて行きました。



私たちの理念を紹介いたします。

1. その人の人生の到達目標＝自己実現が叶えられるよう、人生の終着駅も見通した援助をする。
2. 利用者や家族の想いを傾聴し共感し喜びや悩みを共有する。
3. 訪問看護業務を通じ専門機関や関係する人々との間にたち、利用者やその家族の代弁者となる。
4. 予測性、科学性を持った援助となるよう自ら

研鑽を積む。

5. 社会福祉の思想を啓発、育成する努力をする。
- スタッフは声をそろえて訪問看護は楽しい〔辛い厳しい事もあるけれど〕、と言います。働く環境整備にはまだまだ課題が残りますが、これからもスタッフ一人一人がこの大切な理念を胸に刻み訪問看護を育てていきたいと思っています。

次は『訪問看護ステーションふれあい』さんです。



## 西部 訪問看護ステーション大東

所長 岩倉 はつ子

平成17年に合併して掛川市となりましたが、『訪問看護ステーション大東』と申します。

歴史は、そこそこで平成10年に開設しております。当時事務所は間借りでしたが、転居を重ねて、今やっと外からでも事業所名がわかる一つの事務所をかまえることができました。

交通量が多い道路に面した交差点の角にある為、左右折するトラックの騒音が時に耳障りです。

職員は常勤看護師3名、非常勤看護師9名と事務員1名で、24時間緊急時体制は4名で行っています。子育て中で短時間勤務の職員が多いですが、将来はこの人々がステーションの原動力になると、楽しみにしています。

訪問利用者は、介護保険対象がほとんどで医療保険が少なく、今後開拓

が必要です。これは地域柄の特色ですか。(田舎ということ?)

日中老々看護のお宅が多く、介護者の健康管理も心掛けています。

最近の特徴として、ターミナルケアがこの3ヶ月で昨年の半数を超えたことや、癌末期で帰るなら今しかない状態での訪問介入が増えつつある状況です。「あんたらが頼りだで。」の言葉は励まされて、確かな看護の目を高め、看護観を深めながら、明るい笑顔で働かせていただいています。

次は『訪問看護ステーション夢咲』さんです。





## 他事業所から見た訪問看護のイメージ

社会福祉法人 信愛会 戸田デイサービスセンター 相談員リーダー 新澤 常治

みなさん、こんにちは。今回のテーマについての内容に入る前に、まず私と施設の紹介をさせていただきます。

私は鹿児島県の出身で、4年制大学の社会福祉学部に進学し、卒業と同時に静岡県社会福祉法人信愛会に就職しました。入社してからは訪問看護と同じように在宅の高齢者を支援するデイサービスで経験を積み今に至っております。

現在の私の所属する戸田デイサービスセンターの所在地は過疎化が進行し、一時期は5000人を越えた人口が、今では3500人程へ減少し高齢化率も35%を超える地域事情となっております。そんな中で地域の高齢者を支える在宅福祉サービスは戸田デイサービスセンターと訪問看護ステーションのみとなっている状況で、地域における私達の社会的な役割の大きさを日々感じており、また常日頃からテーマにして戸田地区の高齢者を援助させて頂いております。

さて、本題の「他事業所から見た訪問看護のイメージ」についてですが、「地域の高齢者が一日でも長く在宅生活が送れるようにともに支援していく心強い存在」だと思っています。専門的な医療サービスが充実していない地域において、現在医療ニーズの高い高齢者の方が在宅生活に戻ってくるケースも少なくなく、受け入れる家族も自分達で介護を続けていけるのか不安を抱いている事もあります。また、私達のサービスにおいても医療ニーズがある方を受け入れる際に介護職員が不安を感じる事が多く、そんな折に訪問看護の方に相談して助言を頂くと、職員にも「私達でも受け入れられるのではないか!？」という気持ちになり不思議と勇気が湧いてきます。

また、医療ニーズの分野以外にも、デイサービスにおいては個別機能訓練を実施しておりますが、デイの個別機能訓練と訪問看護のリハを利用している方の連携・調整を図ると訪問看護の方から専門的な視点で助言頂くことがあります。この助言を基に訓練の計画を見直し、訓練の経過の中で利用者のAD

Lが向上し、できる事が増えてくると利用者の意欲にもつながります。また、利用者だけでなく職員も自分達の助言に自信が持て、より自立支援への感性が磨かれていきます。

訪問看護とデイサービスでは利用ニーズや援助内容に違いがありますが、共に一地域、一高齢者を支えていく上では、お互いに欠けてはならない存在であると思います。そんな中で、訪問看護の方達の総合的な知識であったり専門的な視点は、在宅サービスにおいてとても心強い存在であるという今回の訪問看護に対するイメージです。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

なお、戸田デイサービスセンターに関しての情報は下記のホームページに掲載しております。是非ご覧下さい。

ホームページURL

<http://www.shinai-kai.jp/hedads>







## 支部長あいさつ

### 東部支部長

訪問看護ステーションけい  
今村 真理子



昨年、東部支部活動では、主だった活動が3つあげられます。

1つは支援事業として訪問看護電話相談を始めたことです。この事業は現在も行っています。東部地区のステーション管理者の方々の協力のもと、月曜日から金曜日まで受け付けており、25名の管理者が当番制で住民からの相談に対して懇切丁寧に対応しています。

2つめは「在宅での看取り」をテーマにした住民参加型のシンポジウムを開催したことです。同じ形式で今年は「在宅ケアの不思議な力」をテーマに9月18日に開催します。このテーマでおわかりのように基調講演はNHKでも活動が放映された秋山正子さんを招いています。

3つめは初めて開催した管理者交流会です。東部地区は範囲が広く40箇所のステーションがあります。当日は半数以上の方が出席してくださいました。話の中心はやはり電話相談についての意見でした。次回はもっとお互いのステーションを知る機会としての場になればと思います。

1と2は「住民に訪問看護を知って、使ってもらいたい」という目的があります。ですから、個々のステーションの枠を越えた広報活動として取り組みました。3つめは、私自身が支部長になりもっと東部を知りたいと思ったことがきっかけでした。管理者の方達の顔を見、声を聞きたいと思ったのです。

活動中で残念なこともありましたが、現在まで2.5人の看護師を確保できず休止、廃止したステーションが3箇所。みな訪問看護が大好きな管理者の方達です。相談を受けましたが結局力及ばずでした。

支部長になって1年が経過しました。小規模ステーションの管理者としては支部活動と実務の両輪はかなりのタフさが必要ですが、活動を通して人員確保だけでなく悩みを抱えているステーションの声をなるべく多く聴くことも大切な事ではと思い始めています。成果が出た活動はより良くなるように活動するとともに、ステーションの方々との交流会など生の声で話し合い、今後何が求められ、そしてできるのかを議論して実践することで、訪問看護に関する理解の深まりと環境の改善に一役買うよう、更に1年、ステーションの方々と一緒に一体となって東部支部活動を進めたいと考えています。

### 中部支部長

訪問看護ステーション清水  
三浦 さえ子



平成18年度、所長1年生の私が中部支部の総務役員をお引き受けして、早いもので4年の月日が経ち、本年度僭越ながら中部支部長の任を受け身の引き締まる思いです。

正直、恥ずかしい話ですが1年目は私自身がステーション協議会の理解をするのがやっとで、活動していけるのだろうかときえ感じていましたが、理事会、事務局、委員の方々と委員会や研修会などの企画運営を通して、私自身多くの気づきと学びを得ることができました。また、昨年度は静岡県訪問看護推進事業で広域ネットワーク事業の一環であるツールの共同作成事業に取り組み、志太榛原地区と静岡地区の訪問看護ステーション・マップを作成し、日ごろ多忙な地区代表の10人の所長さんを中心に中部支部32ステーション全員で一丸となり、それぞれの地区でPR活動を展

開しました。また、支部の会員の皆様との交流も盛んになり、お互いに顔の見える連携ができました。さらに、今年度の活動は広く地域住民の皆様との交流を考え、平成23年3月12日「老を生きる」をテーマに公開シンポジウムを予定しており、ぜひ有意義な場にしたいと考えています。

さて、ここ数年ステーション協議会のスローガンにも掲げております「マンパワーの確保」ですが、現状は厳しく、会員の皆様も非常に頭をいためているかと思っています。そこで、今年度初めて「訪問看護師就業セミナー」が9月からそれぞれの支部で開催されます。事務局、会員の皆様と協力して一人でも私達の仲間を増やし、未来の在宅ケアを安心して託せるような療養環境をとともに構築していけたらと考えています。

まだまだ未熟な私ですが1年間どうぞよろしくお願いいたします。

### 西部支部長

訪問看護ステーション大東  
岩倉 はつ子



今年度、西部支部長を仰せつかった岩倉と申します。未熟者ですが、よろしくお願い申し上げます。

職場を病院から訪問看護に移した事で、多くの事を学びました。病院からの退院指導で、患者家族の背景を踏まえた指導をしたつもりでも、実は何も見えてない内容だった事もある。また再入院を繰り返す患者さんの原因を、上から目線で嘆いたりもしました。が、実は多くの問題を抱えて、悪化せざるを得なかった事等々の現実と直面した次第です。反面、在

宅という安心と安寧の場所で見せる利用者及び家族の表情に触れ、求められる真の看護サービスを提供できます。これこそ訪問看護の醍醐味と思っています。

今、静岡県地域医療再生計画から、私の職場がある中東遠地域でも医療現場再生計画の説明会がされております。それによると今後益々訪問看護は必要とされ、人材確保が叫ばれております。人材確保はもとより、質の高いサービス提供も不可欠で、少しでも支部活動で取り組む事ができたらいいなと考えております。

会員の皆様の御協力をお願い申し上げます。



## 訪問看護師就業セミナーの開催について

訪問看護師確保のために、訪問看護のやりがいや楽しさを知って頂くセミナーを開催します。東部、中部、西部の各地区で、「平日コース」「土曜日コース」の2つのコースを実施します。詳細はホームページでご確認下さい。

看護職資格があっても仕事をされていない方をご存知でしたら、是非このセミナーを紹介して下さい。よろしくお願い致します。

静岡県訪問看護ステーション協議会ホームページ

<http://www.shizuoka-vnc.jp/>

## 平成22年度 静岡県訪問看護推進事業研修会のお知らせ

本年度も「在宅ターミナルケア研修」「訪問看護ステーションの看護師研修」「在宅ターミナルアドバイザー派遣」の事業を継続します。日程、内容は次の通りです。

詳細につきましては、9月上旬に発送しました案内とホームページを参照の上、お申込み下さい。

【在宅ターミナルケア研修】 平成22年9月25日（土）・10月23日（土）・10月30日（土）

在宅での看取りケア、麻薬についての知識、グリーフケア、アロママッサージ

【訪問看護ステーションの看護師研修】 平成22年11月6日（土）～平成23年2月19日（土） 8日間

医療処置・看護ケア……………精神疾患看護、栄養管理、認知症看護、在宅でのリハビリテーション、  
家族看護、フィジカルアセスメント、呼吸リハビリテーション、  
褥創・スキンケア  
病院見学実習（1日）

医療機関看護師との合同研修……………退院調整

【在宅ターミナルケアアドバイザー派遣】

本年度は派遣希望のあった8ヶ所のステーションへ、アドバイザーとして緩和ケア認定看護師等を派遣します



シェイクハンドも30号を迎え、  
第1号発行から10年が経ちました。  
スローガンである「なやみは半  
分、よろこび倍増」を目指し、会員  
の皆様のお役に立てる広報誌にし  
ていきたいと思ひます。



## シェイクハンドNo.30

2010年9月発行

発行所 静岡県訪問看護ステーション協議会  
静岡市駿河区南町14-25

Tel 054-202-1752

Fax 054-202-1753

e-mail sizuokahoumonst@tokai.or.jp

発行人 佐藤 登美

編集者 長谷川厚子(訪問看護ステーション貴布祢)西部

小田 敏子(訪問看護ステーションマザー)中部

手老美智子(訪問看護ステーション花時計)東部